

学年	5年	時間	社会科「わたしたちの生活と環境」 3 自然災害を防ぐ①～④	時期	2月～ 3月	時数	全4時間
本時目標 (1～4時)	① 我が国の自然災害に関心をもち、資料などを活用し、様々な自然災害の様子について調べる。 ② 自然災害の被害を防ぐための国や県、市町村の対策や事業を調べ、わかったことを発表する。 ③ ④ 自然災害から身を守るために、自分たちがしなければならないことについて理解する。						
資料・準備	スライドや写真(鳥取県の災害、東日本大震災)、日本白地図、防災グッズ、防災マップ、紙芝居等						

<学習の流れ>

第1時 (自然災害の多い日本)

我が国では、どのような災害が起こっているのか。

- 我が国で近年起きた自然災害について、各種資料を活用して調べ、話しあう。
 - 近年、日本で、また鳥取県で起きた自然災害の資料を見て、様子をとらえ、日本全国で地震、津波、台風、竜巻、突風など様々な自然災害があることを知らせる。鳥取県も例外ではないこと。
- 自然災害の発生場所や発生時期について出し合う。
 - 教科書の表や日本地図、2008年以降の災害(東日本大震災)、鳥取県の災害(西部地震、台風、大雪)
- 安心して生活できるようにするためにどうすればよいのか考えを出し合う。

人々は自然災害をどのように防いでいるのか。

第2時 (災害を防ぐために)

国、県、市町村では、自然災害から人々を守るためにどのような取り組みが行われているのか。

- 国、鳥取県、各市町村の自然災害を防ぐ取り組みについて調べる。
 - 台風の場合→ 天気予報(気象庁の情報)→ 避難の必要がある場合避難の呼びかけ(市町村)
 - 土石流の起きやすいところ→ 砂防ダムの設置(国、県)
 - 地震・津波→ 避難所の指定、避難やぐらやひなん施設の設置、緊急地震速報や津波予報(気象庁)
- 災害のときに素早く逃げるためには、どんなことが大切か考え、話しあう。
 - 正しい情報の伝達→ 天気予報(気象庁)(台風の発生・進路・大きさ)
緊急地震速報(気象庁)(地震・津波の起き方、緊急地震速報のしくみ)
 - 防災マップの作成→ 避難所、避難経路、災害が起きそうな場所(各市町村、地域)
 - 防災訓練の実施→ 学校で、地域で(住民みんなで行う)

第3・4時 (地域の人々で災害を防ぐ)

自然災害から身を守るために、わたしたちは何ができるだろうか。

- 災害体験者や日野ボランティア・ネットワークの人等の話を聞き、分かったことなどを話しあう。
 - 災害体験者(鳥取大震災、鳥取西部地震、東日本大震災)や災害ボランティア体験者の話を聞き、自然災害の被害を防止するために大切なことを話しあわせる。
 - 「稲むらの火で命を救え」(道徳)、「津波だ!いなむらの火をけすな」(紙芝居)、「村人を津波から救った濱口梧陵」(社会教科書)を視聴して、分かったことを話しあわせる。
- 自然災害から身を守るために大切なことは何か話しあう。
 - 自然災害の前ぶれを知っておく。普段から備えをしておく。避難袋の準備、避難場所・経路の確認
- これまでの学習をもとに、自然災害の被害防止のために自分たちにできることをまとめ、発表する。

関連する 教科・領域等	(社会科)「わたしたちの国土」4月～5月 (理科)「台風と気象情報」9月 「流れる水のはたらき」10月 (国語)「森林のおくりもの」11月 (道徳)「稲むらの火で命を救え」(文溪堂)
協力団体	県治山砂防課、消防防災課、鳥取地方気象台、鳥取大学、災害体験者、日野ボランティアネットワーク